



本格的流行に備えましょう 新型インフルエンザワクチン接種の心得

新型インフルエンザが道内で流行し始めています。特に基礎疾患をお持ちの方は重たく化する可能性があるなど油断できません。今月は本格的な冬到来とともに流行拡大が心配な新型インフルエンザの症状の特徴や注意しなければならぬ点、ワクチンの基礎知識をお話します。

新型インフルエンザは、国民の大多数に免疫がなく、感染拡大する恐れが高いことが心配です。その特徴は、季節性インフルエンザと類似した点が多く、感染力は強いですが、感染者の多くは軽症のまま回復するようです。

治療薬は、タミフル、リレンザが有効ですが、糖尿病、ぜん息などの基礎疾患をお持ちの方、妊婦などは重症化する可能性が高いといわれています。

予防対策としてのワクチン接種は、感染防止の効果は実証されていないものの重症化の予防に一定の効果が期待できます。

ワクチンには、国内産と海外輸入の2タイプあります。

国内産ワクチンの安全性は季節性インフルエンザと同程度と考えられています。

季節性インフルエンザ用のワクチ

ンは、副反応として発赤、腫脹（しゅじょう）、疼痛（とうつう）などの局所反応と、発熱、悪寒、頭痛、倦怠（けんたい）感、おう吐などの全身反応があります。

通常2、3日で消失しますが、まれに重く副作用も起こる可能性があります。

輸入ワクチンは、国内産ワクチンとは製造法、成分は接種方法等が違い、有効性、安全性が異なる可能性があります。

接種には優先順位があります

新型インフルエンザワクチンの優先的な接種順位は次の順位です。

①インフルエンザ患者の診療に直



に従事する医療従事者②妊婦、基礎疾患を有する者（慢性呼吸器疾患、慢性心疾患、慢性腎疾患、慢性肝疾患、神経疾患、神経筋疾患、血液疾患、糖尿病（薬物治療中）、疾患や

治療に伴う免疫抑制状態（悪性腫瘍（しゅじょう）、関節リウマチ、膠原（こうげん）病、内分泌疾患、消化器疾患、HIV感染症を含む

む）、小児科領域の慢性疾患③満1歳から小学校3年生に相当する年齢の小児④満1歳未満の小児の保護者

①②④に該当する方を対象に、①から順次接種を始めています。その他対象者は、○小学校4～6年生、中学生、高校生に相当する年

齢の者○高齢者（満65歳以上）基礎疾患を有する者以外①の順に接種をします。

前記以外の方の接種は、状況を見て対応することになっています。

ワクチン接種回数は、2回を前提にしていますが、今後の臨床試験の結果などを踏まえ、健康状態や年齢により1回接種に見直す可能性があります。

接種費用

・1回目 3千600円
・2回目 2千550円（1回目と異なる医療機関で接種する場合は3千600円）

東川町民の方は、課税状況によって費用の負担軽減があります。今月号に入っているチラシをご覧ください。

接種できる医療機関

○町立診療所（予約制）
国の接種スケジュール（優先順位からの接種）に従い接種します。

○町外医療機関
随時情報を提供します。

お問い合わせ

住民福祉課保健指導室 ☎82-2111（内504、505）
東川町立診療所 ☎82-2101